

## 同窓会報

第 16 号

### 平成24年度総会・懇親会のお知らせ

日 時 **5月19日** (土) 総会受付 午後1時30分～  
総 会 午後2時～  
懇 親 会 午後3時～

場 所 **三井ガーデンホテル** (千葉パルコ前)  
☎ : 043-224-1131

会 費 **7,000円** (当日受付にてお支払いください)

懇親会だけの出席も大歓迎です。恩師の先生方も多数ご出席いただいております。本年は昭和46年卒高校第23回生の皆さんが幹事団を組んで取り組めますが、卒業生はどなたでも出席できますので、お誘い合わせの上ご来場下さい。お問合せ・お申込みは、5月10日までに同窓会事務局 (☎ : 043-251-9221) へ。

「シャロンの花」は校歌の歌い出しです。

昭和26年、創立10周年記念に制定されました。当時教頭でいらした沢田繁二先生作詞のこの校歌は、他校にはない美しい響きを持つ詩で綴られています。同窓会報を創刊するにあたり、懐かしい言葉「シャロンの花」をタイトルにいたしました。

シャロンは、イスラエル西部の地名です。その地に咲く白い可憐なシャロンの花は、旧約聖書で「純潔」の象徴とされています。

平成24年3月8日発行

(表紙タイトル・イラストデザイン 昭和35年卒 北川広志)

発行者	千葉県立千葉東高等学校	編集者	千葉県立千葉東高等学校同窓会事務局内
	同窓会会長 井戸川 浩	編集部	〒263-0021 千葉市稲毛区轟町1-18-52
			TEL 043-251-9221 FAX 043-255-6575

印刷所 株式会社 宮坂印刷 TEL 043-251-4537 FAX 043-251-4535



### 同窓会報「シャロンの花」 第16号発刊ご挨拶

千葉県立千葉東高等学校同窓会  
会長 井戸川 浩

同窓会会員の皆様並びに恩師の先生方お元気でお過ごしでしょうか？

また、本年卒業された皆さんを新たな会員としてお迎えするにあたり心から歓迎の意を表したいと思ひます。会報「シャロンの花」第16号をお届けいたします。昨年、創立70周年という節目の年を迎え、記念式典

が行われ、多くの方々からお祝いのコメントをいただきました。

同窓会報「シャロンの花」が脆弱な財政基盤の中でもコツコツ発行できたのも、母校愛あふれる同窓生の皆様からの継続的な寄付のお陰と心から感謝申し上げます。

また、日々の活動を支えて下さった校長先生をはじめ先生方のご尽力にも厚くお礼申し上げます。

どうか、今後も発展する母校の後援会として同窓会活動を積極的にご支援いただきますとともに、会報「シャロンの花」をご愛読下さい。



### ご 挨拶

同窓会名誉会長（学校長）  
校長 渡邊 茂通

昨年4月に着任しました校長の渡邊茂通です。同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に多大なる御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年3月の東日本大震災を受け、復旧・復興と防災体制の見直しからスタートした平成23年度ではございましたが、10月の創立70周年事業も滞りなく実施でき、これも同窓会を始め、皆様方の御支援のおかげと感謝しております。

本年度の教育活動の一つである高大連携では、千葉大学で大学生と一緒に授業を受けられる事業、High School on Campusには81名、大学と連携して先進の理数教育が受けられる事業Science Partnership Projectに

は69名もの生徒が参加しており、大学教育への興味関心の高さを示しています。また、学校行事においては、本校文化祭である東雲祭に約5千名のお客様が来られ、地域の皆様の本校に寄せる関心の高さがわかりました。部活動では、全国高校総体で、山岳部が男子は優勝、女子は6位に入賞しました。さらに、科学振興機構（JST）が主催する「平成23年度科学の甲子園」においては、県大会で準優勝いたしました。このように、進学実績だけでなく、学校行事や部活動など、あらゆる分野で大いに活躍した一年であったと思ひます。

平成24年度からは学級が一つ増えて、一年次（単位制なので学年と言わず一年次と呼んでいます。）が9学級になり、本校の生徒数も、今後ますます増えることが予想されます。そうした状況を受け、校内では、「将来像検討委員会」を立ち上げ、生徒・保護者だけでなく、地域からも高く信頼される学校づくりを目指してまいります。

同窓会の皆様におかれましては、今後とも母校の隆盛のために御支援くださるようお願い申し上げます。

**貸ビル業**  
JR蘇我駅西口前  
**新月**  
千葉市中央区今井2-4-7  
☎ 043-261-2850  
大森啓護（昭和31年卒・野球部）

**ギャレックスチバ株式会社**  
代表取締役 澤田繁信（昭46年卒）  
千葉市中央区今井3-1-9  
[TEL] 043-261-4528  
[FAX] 043-265-5446  
[mail] info@galaxchiba.jp

  
オリジナルマーキングは当社へ



# 平成23年度 千葉県立千葉東高等学校同窓会総会報告

平成23年度同窓会総会・懇親会が平成23年5月21日(土)千葉市の京成ホテルミラマーレで開催されました。

## 【総会】

**黙祷：**開会に先立ち、お亡くなりになった先生方や卒業生、東日本大震災で犠牲になった方々へ黙祷を捧げました。

### 1. 会長挨拶要旨

本日は多数ご参加有難うございます。東日本大震災をきっかけに人々の絆が再認識されている中、同窓会は学校を縁とする絆集団として、卒業生の絆をつなげる役割を果たしている。教職員や保護者など関係の方々からも献身的な尽力をして頂き感謝している。

### 2. 名誉会長挨拶要旨（渡邊校長）

この4月より校長を務めていて、昭和47年の本校卒業生でもある。本校は今年で70周年の節目を迎え、記念行事を企画している。ご支援ご協力をお願いしたい。本校では様々な活動を通して人間力を高める教育をしているので、今後ともご支援お願いしたい。

### 3. 来賓紹介および挨拶要旨（須田先生）

（小川常任幹事より来賓紹介があり、代表として第11代校長だった須田義男先生が挨拶。）

私は創立40周年当時の校長。山梨県の出身であり、(郷里と)離れていればいるほど母校は心に残っていると感じるもの。また、総会に行くといつもいつも新しい出会いがあることはとてもうれしい。それと同様に、皆さんも同窓会に新たな出会いや生きがいを見つけてほしい。今後の発展をお祈りする。

電報の紹介が高橋副会長からあった。  
須藤教頭から教職員の紹介があった。

### 4. 議事（議長 小塚書記）

- (1) 平成22年度事業報告（井戸川会長）
- (2) 平成22年度同窓会費決算書（石橋副会長）
- (3) 監査報告（澤田監査）

石橋副会長が一般会計の現状を訴え、維持基金の納入や総会への多数参加を呼び掛けた。

- (4) 役員の変更（井戸川会長）  
新任の鈴木英一氏と石橋邦彦氏を紹介した。
- (5) 平成23年度事業計画（案）（井戸川会長）
- (6) 平成23年度事業予算（案）（井戸川会長）

創立70周年記念事業として、体育館緞帳の交換や校内LAN敷設などをすると伝えた。

（文責 市原俊介 高校第45回H5卒）



## 【懇親会】

本年の年度幹事である高校第22回(S45年卒)の藤代 優氏を幹事長とする各クラスの皆さんがたが今年の総会(H22.5.22.)で引き継ぎ式をしたのち多くの打ち合わせを重ね、同年次の団結と懇親会の盛り上げを旨に周到に準備したものでした。

ご尽力に対し心からの謝意を表すものであります。



挨拶する懇親会年度幹事代表  
藤代 優氏(高校第22回S45卒)

（藤代代表幹事のコメント）

我々45年卒業同期は、130名が参加してくれて、恩師も囲んで大盛り上がり。準備も含めて、同窓生の“絆”も実感でき、大変楽しく貴重な経験でした。ご協力戴いた全ての皆様に感謝。ありがとうございました。



にぎやかに盛り上がる  
懇親会



次年度懇親会幹事引継式

高校第22回(S45卒) 年度幹事代表 藤代 優氏から  
高校第23回(S46卒)の年度幹事団へバトンとタスキが渡される

次年度代表幹事市川重則氏の決意表明要旨

今年の懇親会の運営は昭和46年3月卒が幹事を務めさせていただきます。

恩師を囲み「懐かしいあの頃」にタイムスリップ！楽しくひと時をお過ごしください。

平成22年度千葉東高等学校  
同窓会決算書

総収入 ¥4,821,051  
総支出 ¥5,651,101  
残 額 ¥△830,050 … 次年度へ繰越

収入の部 (単位:円)

項 目	収入済額
1. 繰 越 金	△ 377,068
2. 会 費	969,000
3. 入 会 金	161,500
4. 同窓会活動維持基金	1,550,500
5. 総 会 会 費	1,358,000
6. 広 告 代	70,000
7. 雑 収 入	89,119
借 入 金	1,000,000
計	4,821,051

支出の部 (単位:円)

項 目	支出済額
1. 運 営 費	2,079,611
(1) 会 議 費	191,868
(2) 総 会 費	1,132,900
(3) 通 信 費	423,039
(4) 慶 弔 費	238,644
(5) 旅 費	0
(6) 雑 費	93,160
2. 事 業 費	3,571,490
(1) 同窓会報発行費	3,171,490
(2) 母校部活動支援費	300,000
(3) 海外派遣支援費	100,000
3. 予 備 費	0
計	5,651,101

基金繰入金会計

平成23年3月末現在 ¥4,893,996 (単位:円)

項 目	収 入	支 出
前年度繰越金	4,885,740	0
利 息	8,256	0
計	4,893,996	0

創立70周年記念事業基金

平成23年3月末現在 ¥8,440,880

(単位:円)

項 目	収 入	支 出
前年度繰越金	7,924,173	0
利 息	1,776	0
一般会計へ融通		1,000,000
60周年繰越金	1,630,881	0
利 息	12,050	0
今年度入金分	872,000	0
計	9,440,880	1,000,000

会計監査報告

平成22年度同窓会会計の出納簿、証拠書類及び預金通帳等を詳細に検査した結果、処理が正確であり支出も適正であることを認めたので、ここに報告致します。

平成23年5月14日

千葉県立千葉東高等学校同窓会  
会計監査 時田 拓 央 ㊟  
澤田 繁 信 ㊟

平成23年度千葉東高等学校  
同窓会費予算書

収入の部 (単位:円)

項 目	収入済額
1. 繰 越 金	△ 830,050
2. 会 費	969,000
3. 入 会 金	161,500
4. 同窓会活動維持基金	1,600,000
5. 総 会 会 費	1,500,000
6. 広 告 代	100,000
7. 雑 収 入	100,000
計	3,600,450

支出の部

(単位:円)

項 目	収入済額
1. 運 営 費	1,710,000
(1) 会 議 費	200,000
(2) 総 会 費	1,000,000
(3) 通 信 費	200,000
(4) 慶 弔 費	200,000
(5) 旅 費	10,000
(6) 雑 費	100,000
2. 事 業 費	850,000
(1) 同窓会報発行費	450,000
(2) 母校部活動支援費	200,000
(3) 母校教用具支援費	100,000
(4) 海外派遣支援費	100,000
3. 予 備 費	40,450
4. 70周年基金への返済金	1,000,000
計	3,600,450

創立70周年記念事業基金

平成23年9月末現在想定 ¥11,150,086

(単位:円)

項 目	収 入	支 出
前年度繰越金	7,797,949	0
利 息	3,000	
一般会計から返金	1,000,000	
今年度入金分	700,000	
60周年繰越金	1,639,137	
利 息	10,000	
計	11,150,086	0

尚、本基金は平成23年10月に母校の創立70周年事業で支出される見込み

基金繰入金会計

平成24年3月末現在 ¥4,903,996

(単位:円)

項 目	収 入	支 出
前年度繰越金	4,893,996	0
利 息	10,000	
計	4,903,996	0

# 卒業生 バンザイ

## 卒業生の 新校長に聞く



(2011.11.17. 母校校長室にて。聞き手：井戸川同窓会長)

今回は2011年4月に着任された二人目の母校卒業生である渡邊茂通校長にお話をお聞きしました。

—— 校長先生、第15代の畠田先生に次いで二人目の母校卒業生の校長ご就任おめでとうございます。卒業生であるわれわれにとっても、大変嬉しいことです。

渡 邊：ありがとうございます。畠田先生のご業績や多くの校長先生のご光跡に恥じないよう母校発展に尽くしたいと願っています。

—— 同窓生の校長就任というのは、学校がそれだけ歴史を刻んできたことの証ですし、これからもどしどし就任してくれる、そういう時期に来たんだなと感慨深いものがありますね。ご卒業年はいつでしたか？またどんな先生の思い出がありますか？数学の先生を志そうとなさったそのきっかけは具体的にはどんなことですか？

渡 邊：卒業は昭和47年(1972年)です。1年生の時は、数学の亀 忠夫先生がご担任でした。2・3年生の時も数学の長谷川 滋先生でした。この両先生には大変お世話になり、ご縁と言いますか両先生のお陰で数学が好きになりました。結果、好きな数学を仕事に活かしたいと考え、大学が商学部だったこともあり、数学の教師になりました。今も感謝しております。

—— これまでのご経歴と思い出を聞かせて下さい。

渡 邊：これもご縁でしょうか。学生時代に教育実習を本校でさせていただき、実習終了時に畠山校長先生にご挨拶した時に、井下田博先生を紹介されました。その後、晴れて教員になって初任の県立銚子高校に赴任すると、なんと校長先生が井下田先生で、大変驚きました。同時に、面識があったという事で大変緊張感が解けたのを覚えています。その後、船橋芝山高校、千葉女子高校と勤務し、平成9年から12年間は、(途中2年間、市立千葉高校に教頭として勤めましたが)教育委員会に勤務しました。この間、教育に携わる者として、私はいつも、生徒の数学の力を伸ばしたいと必死に頑張ってきました。習熟度別授業も行いました。細かなことですが、一つの章が終わるたびに試験を行い、合格点に達しない生徒には合格点を取るまで、毎日放課後、追試をしました。最長は5日間ぐらい連続して追試をしたことがあり、その後、離任式で、「追

試でいつも追いかけられた先生」と紹介され、苦笑してしまいました。当時を思い出すと、生徒のためならば、どんなに大変でも、どんなに時間がかかっても、すべてやりつくしたという自負がありますし、立場が変わった今でもこの信念を貫いているつもりです。

—— 母校について、生徒の時と校長として就任した時とでは感じ方が大きく異なっているとは思いますが、ご着任されてどんな感想をお持ちになりましたか？

渡 邊：生徒として在学中は、良い意味でも悪い意味でも自由な学校だったという印象が強かったですね。今、校長として生徒を見てみると、勉強、部活動、学校行事の全ての面で、頑張る学校に「飛躍」しているという印象が強いです。

—— 「頑張る」と言うのは多分「好きなことだから」でしょうね。PTA会報で見る生徒の感想や東雲祭に取り組んでいる生徒達を見てみると、「素晴らしい仲間巡りに巡り合えた喜び」を語る子や、そういう仲間と、勉強にせよ部活にせよ「好きだから際限なく取り組める」という喜びを感じます。授業参観した時も、先生の質問に対して答えに戸惑うと、周囲から素早く助け舟が出るのを何度も見ました。仲間意識が強いですね。「絆」の存在を感じます。それが自分ばかりではなく他人のためにも頑張る人間像に成長していますね。生徒指導面で心掛けていることというかご方針はありますか？

渡 邊：本校は「自主」とか「自由」といった名のもとに、生徒を放任するのではなく、「丁寧な指導」を実践しています。一例をあげると、生徒に課題を課す場合でも、回収、返却するにあたり、問題点を意識させる採点や添削を工夫しています。こうしたことで生徒は日々の学習の習慣化と実力向上を果たし、教師は授業の効果を評価・確認し、より生徒に適した教材を提供しています。そうした先生方のたゆまぬ努力が、進学指導重点校としての実績に繋がっていると確信しています。

—— 母校は「教養の復興」を掲げて、多科目受験による教養の付与、進路指導にもチャレンジする精神を涵養するための①現役主義 ②国公立主義 ③団体主義を掲げていますが最近の進学実績を紹介していただけますか。

渡 邊：平成22年度の進路状況は、国立大学は、東京大学2名、千葉大学28名など139名、私立大学は、慶応大学27名、早稲田大学58名など796名が合格し、現役合格率は71%に達しました。

—— すごい実績ですね。具体的にはどんな指導をされたんでしょうか。

渡 邊：進路指導については、ここの生徒の希望に即した情報を提供し、生徒に「合格するのに楽な大学」など安易な妥協をさせることなく、高い目標にチャレン



ジするように、常に意欲を高める指導をしています。そうした個々の生徒に応じた「丁寧な指導」により、生徒の夢を実現しています。

—— 本校は「文武両道」を標榜し、勉強ばかりでなく部活動についても熱心に取り組むよう指導されるとお聞きしておりますが、最近の成果をご披露いただけますか。

渡 邊：はい、部活動の加入状況は97.6%に達し、運動系は56.4%、文科系は41.2%です。主な成果としては、運動系では、山岳部が今夏の高校総体で、男子は全国優勝、女子も6位に入賞しました。陸上部は、女子100mで県大会4位となり、山口国対にも選手を送りました。文科系では、囲碁同好会と美術部が、全国高校総合文化祭に出場しました。吹奏楽部、マンドリン楽部は5月に市内で定期演奏会を実施し、OBはじめ多くの観客を集めました。

—— 学校行事としては何か……。

渡 邊：はい、学校行事としては、9月3・4日に、本校文化祭である「東雲祭」を行い、恒例となった3年生による演劇は好評でした。来客総数は5千名のほり、他校生だけでなく、卒業生や近隣の方々との変わらぬ交流を実現しております。

—— 今朝の新聞（2011.11.17読売朝刊）に、一部の高校で新たに中高一貫教育のための付属中学を新設することが検討されているという記事がありました。小学生を持つ親の立場からすれば中高一貫の学校に中学校から入学させたいと思うのではないのでしょうか。少子高齢社会に突入している現在、優秀な中学生を公募で確保していくことは中々難しいのではないかと危惧しています。そこで、母校も同様付属中学を設置するのか、それをしないとすれば、現在の水準を維持するためには優秀な中学生を確保する対策が必要だと思うのですが、何かお考えはありますか。

渡 邊：本校は、入学した生徒の実力を十二分に伸ばしている学校であると思っています。毎日7時限授業をしていることをはじめ、高大連携として千葉大学の授業を80名あまりの生徒が受講し、単位を取っています。

また、異文化理解や環境教育を推進する目的でユネスコスクールにも加盟申請しています。さらに、丁寧に日配りのきいた進路指導と充実した課外の学習活動があります。もちろん、実力養成の基本は授業のレベルアップであり、本校の授業を真剣に受けていれば、国立大学に3人中1人ぐらいの割合で合格しています。私は、いつも、本校の優秀な教師陣とレベルの高い授業を誇りに思っています。そして、そのことを中学生にも理解してもらえるよう、機会を捉えて積極的に広報しています。たとえ遠回りに見えても、自分で獲得したという自信の持てる教育、在校生によかったと思ってもらえる教育を実践することが、優秀な中学生を確保することに繋がると確信しています。

—— 最後に、同窓会についてお聞きします。進学高校の同窓会活動はなかなか難しい面がありますがご着任されて他校と比較してどのような感想をお持ちになりましたでしょうか？

渡 邊：はい、同窓会は日頃から本校教育活動への深いご理解をいただき、部活動振興費などのご支援や教職員に対するご激励など物心両面に亘るご支援には大変感謝しています。また先日の70周年記念事業の実施に向けては、前任の玉造校長先生からの周到な準備を受け、同窓会やPTAの皆さんのご支援を頂いたことで、滞りなく行うことができました。体育館の緞帳はじめ、音響設備など永年の懸案が同窓会のご高志で解消することができ、かつ校内LANの整備など、教育環境の充実も進めることができました。厚く感謝しております。こうしたご支援を力に本校生が社会のトップリーダーとしての高い教養が身につけられるよう「丁寧な指導」を合言葉に、日々職員とともに努力してまいります。今後とも母校教育支援にご協力くださいますとともに次の80周年に向けてもよろしくご協力のほどお願いします。

—— 本日はお忙しい中お時間を頂きありがとうございます。ありがとうございました。

あなたが住みたい町のアパート・マンション  
お部屋探しを応援します!!

ISO9001認証 千葉県知事免許(10)5206号  
株式会社 **高品ハウジング**  
同窓会副会長・県議会議員 山中 操  
千葉県若葉区高品町1585-1 ☎ 043-232-0006 携帯電話でQRコードを  
読み取ってください

アパマンショップ  
bayfm78 千葉テレビ 毎週日曜日 22:00~22:30  
当社提供『村口史子のグッドゴルフ』にてCM放送中

# 創立70周年記念式典

母校創立70周年。古来稀なる歴史を刻んで県下高校界の雄に成長。

昭和16年(1941)4月8日 千葉市港町19番地 千葉市立千葉高等女学校 第一期生214名(4年制)の授業開始。

あれから70年―。時代は戦争・敗戦・混乱を経て平和の時代が長く続き、年号も昭和から平成に変わりました。

母校は昭和20年7月7日の空襲で焼けたあと、23年4月17日港町から轟町に移転し現在に至りました。

そして、平成23年(2011)10月5日。創立70周年を祝う記念式典が肅々と母校体育館で開催されました。

先立つ3月11日、日本は未曾有の大災厄とも言える東日本大震災、大津波、原発事故と放射能という国難に見舞われました。華やかなことは遠慮するという風潮の中、記念式典をどうするか種々協議の結果、在校生にとっては自ら通学する学校が誕生してから70周年という歴史を刻んで来たというこの節目に立ち会えた事だけは、心に刻んでほしいと考え、生徒中心のささやかな式典にいたしました。式典の概要を以下にご紹介いたします。

(敬称略)

## 記念式典式次第

1. 式典序曲(吹奏楽部「幸福をもたらす第六の宿」の演奏、次いで音楽部がステージ上で校歌をハミング)
2. 開式の辞(教頭 須藤信夫 高校第27回S50卒)
3. 国歌斉唱
4. 校長式辞(校長 渡邊茂道 高校第24回S47卒)
5. 実行委員長挨拶  
(井戸川浩同窓会長 高校第11回S34卒)
6. 来賓祝辞(第11代校長 須田義男)
7. 来賓紹介・祝電披露  
来賓：  
第11代校長 須田 義男、第13代校長 齊藤志貴雄  
第14代校長 高橋 浩司、第15代校長 嵐田 侑兒  
第16代校長 荒川 昇、第17代校長 長妻 孝治  
第18代校長 曾川 定雄、第19代校長 寺田 信彦  
第20代校長 五十嵐和廣、第21代校長 玉造 功  
通信制振興会会長 井下田 博の各先生  
平成14年度PTA会長 吉田久美子、平成22年度PTA会長 鹿間道子、同窓会・PTA新旧役員、開かれた学校づくり委員会委員、本校旧職員の皆さま  
祝電：  
千葉県教育委員会教育長 鬼澤佳弘  
第12代校長 森田 章
8. 感謝状贈呈(対象：60周年以降の歴代校長先生 第18代校長 曾川定雄、第19代校長 寺田信彦、第20代校長 五十嵐和廣、第21代校長 玉造 功の各先生)
9. 受賞者代表挨拶(第18代校長 曾川定雄)
10. 記念事業目録贈呈(創立70周年記念事業実行委員長〈井戸川同窓会長〉、実行副委員長〈蜂屋PTA会長〉から母校の希望による体育館舞台緞帳・大型スクリーン、音響装置他一式の寄贈目録の伝達、並びに渡邊校長からの謝辞)
11. 生徒代表挨拶(生徒会長 松下瑞紀 謝辞)
12. 校歌斉唱(列席者全員で校歌を斉唱)
13. 閉式の辞(教頭 須藤信夫)



記念式典で挨拶する井戸川実行委員長(同窓会長・高校第11回S34卒)

# 実行委員長挨拶要旨 創立七十周年を迎えて

実行委員長 井戸川 浩

本日、ここに千葉県立千葉東高等学校創立七十周年記念式典を挙行するにあたり、実行委員長として心からのお祝いを申し上げますとともに、ご挨拶申し上げます。

はじめに、本日のこの式典を挙行するにあたりまして、ご多用中にもかかわらず、ご臨席の栄を賜りました歴代校長先生はじめ、多くのご来賓の皆さま方に厚くお礼申し上げます。

また、同時に本式典のご準備にあたられた本校の先生方はじめ、実行委員会等ご関係の各位のご協力にも心からお礼申し上げます。

実は、この式典につきましては昨年からは実行委員会を立ち上げ、準備をしておりましたが、前任の玉造校長先生が今年三月末でご定年になられるため、規模や招待者等の詳細は四月に新任の校長先生が御着任されてから決めようという事にしておりまして。

しかしながら、ご案内の通り三月十一日の震災に伴い、祝賀ムードは自粛の方向になりましたため、極く内輪で実施という事にさせていただきます。その分、内輪のよしみで心温まる式典にしたいと念願しております。ただ、学校は教育機関でもありますし、著名な講師の先生のお話を聞いていただくのは将来ある生徒の皆さんにとって大変有益であろうという事で、講演会だけは実施しようという事に致しました。

よろしくご高含下さいませようお願いします。

私は、本校の同窓会長でもありませんので、ここで本校創立七十周年記念事業に対する同窓会の取り組みについて少々付言しておきたいと思えます。

同窓会は、学校方針に沿って、微力ながら母校の発展を後押しすべく、生徒の成長を助長し、指導に当たる先生方への敬意を醸成し、卒業生との絆を深めるなどの活動を重点的に続けてまいりました。

その一つでもある周年事業については、創立五十周年には生徒の皆さんの総意を受けて五十年後の創立百周年に明けようタイムカプセルを校庭の一角に埋め込みました。

十年後の創立六十周年に対しては、母校への教育環境改善に資する設備等の寄贈を計画し、創立六十周年記念事業基金を創設し、数年間にわたり卒業生全員に呼びかけて寄付を募り、資金を積み立ててまいりました。結果として、教室の耐震化工事のために暗くなった校舎廊下に潤いを与える空間を作るということで「芸術鑑賞設備」として壁面パネルと展示ケースをPTAの皆さんとともに寄贈致しました。

今回の七十周年も六十周年終了と同時に、創立七十周年記念事業基金を作り、十年間に亘って寄付を募り、積み立て、一千万円近いお金を集めました。そしてその一部で、PTAさんと共同負担で綴帳の新調等舞台設備の更新を実現致しました。

同窓会はまだ寄付金が残っておりますので、校内LANの新設などさらなる教育環境整備のために使って頂きました。

これは十年間にわたる延べ数千人という多くの卒業生の母校愛の結晶と言えるでありましょう。

さて、十年後の八十周年ではどういことが計画されるでしょう。九十年ではどうでしょう。そして百周年では？ そう、百周年事業は、ここにおられる生徒の皆さん方の双肩にかかっていると言えましょう。(後略)

本日は誠におめでとうございます。

## 記念講演

生物学者 青山学院大学教授 福岡伸一氏による講演

演題：生きることは学ぶこと

講演後、生徒からのたくさんの質問に対し懇切丁寧に説明頂いたのが印象的でした。

なお、講演内容は著作権の関係で触れることができませんので著書をご覧ください。



講演する青山学院大学 福岡伸一 教授

講師略歴：1959年生まれ。京都大学卒業。米国ハーバード大学研究員、京都大学助教授。青山学院大学教授。

著書：「プリオン説はほんとうか？」講談社ブルーバックス、「生物と無生物のあいだ」講談社現代新書、「動的平衡」木楽舎、「ルリボシカミキリの青」文藝春秋など。

## 創立70周年記念事業基金の使途の概要(仮集計)

10年間、延べ5千人にのぼる母校愛の結晶は、平成22年11月頃から、生徒や学校側の希望取りまとめをすすめ、最終的に右記表のように使われました。

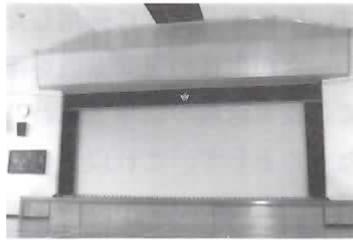
母校生徒・教職員の皆さんは、多くの心温かい先輩の存在に誇りを持ち、「絆」を感じ、心強い気持ちを抱きながら大変喜んでおられたことをお伝えします。

多くの同窓生の皆さんのご厚志に心からのお礼を申し上げます。

①綴帳・放送設備等更新	6,442,795円
②校内LAN・パソコン関連設備工事	2,539,385円
③写真・ビデオ等記録関係	216,535円
合計	9,198,715円…(1)
70周年記念事業基金	9,211,498円-(2)
	(2)-(1)=12,788円
	(80周年へ)



舞台袖に標示されているプレート



新調された体育館舞台の緞帳  
(大型スクリーンは内側にあります)



緞帳を上げているところ



講演中の福岡先生  
(県下の大型スクリーンをみて下さい)

記念式典に出席された方々から「70周年おめでとう！」のお祝いと共に、下記のようなお言葉が寄せられました。

厚く御礼申し上げます。

#### 第11代校長 須田義男 先生

式典当日、壇上の来賓席に着席した時、ふと東高に着任した時実施した40周年記念式のあれこれが思い出された。特に、凡てに不案内の中で同窓会をはじめ、関係各位の温かいご支援は忘れられない。今回参列した生徒達も、先輩の支援を肌で感じ、県下に輝く千葉東高を築き上げてこられた先輩たちの活躍の様子を再認識し、各人の活動の糧として、生きて行くであろう。

#### 第13代校長 斉藤志貴雄 先生 (談話)

メリハリの利いた式の流れ、生徒の態度、どれをとってもとても立派な式典で、大変感動致しました。

福岡先生の講演も大変興味深くお聴きしました。

多くの先生方とともに本校の教育活動に携われたことを誇りに思います。

#### 第14代校長 高橋 浩司 先生

福岡先生の講演まことにいい講演でした。このような催しを十周年毎ではなく、毎年開かれたらどうでしょうか？

生徒には、現代科学の先端の話をしてあげることが大切だと思いました。

#### 第15代校長 嵐田 侑兒 先生 (高校第5回S28卒)

これまで私の経験してきたこの種の記念事業と比べ、新しい発想と企画の素晴らしさを実感しました。井戸川実行委員長、渡邊校長を中心に関係の委員の方々のご苦労は大変だったと思います。生徒、教職員、PTA、同窓会の方々が主体的、中心的な活動を展開する場面が配慮されており、皆さんには忘れられない感動的な一日だったと思います。福岡伸一先生の記念講演は、生徒達の学習の示唆となり大変良かったと思います。

#### 第16代校長 荒川 昇 先生

久しぶりに東高を訪れ、懐かしい方々にお目にかかることができ、大変楽しい一日を過ごすことができました。

現在、千葉県体育協会の役員をしている関係で、国体や、高校総体で、東高の生徒諸君の活躍を目にすることがよくあります。文武両道を目指して頑張っている君たちに心からのエールを送ります。

#### 第17代校長 長妻 孝治 先生

厳粛なる記念式典に出席し、70周年という歴史を思い、その歴史の重さを感じた次第です。

講演を聞き入る生徒の姿、質疑応答での内容等、伝統ある千葉東高生の姿を彷彿とさせていました。

このような生徒の集まる千葉東高は、更なる高邁な歴史を積み上げていくものと確信しています。

**第18代校長 曾川 定雄 先生**

本校に3年間校長として在職しましたが、当時の生徒・教職員や保護者・同窓会のあり方が、私の考える「高校らしい高校」に近く、教職最後の日々を本校で勤務できた事を大変幸せに感じておりました。それから10年たった現在も、70周年記念式典等にそのよき伝統が継続され、更に充実発展している姿を垣間見て、感慨に浸っています。本校のさらなる発展を祈ります。

**第19代校長 寺田 信彦 先生**

久しぶりに西千葉の駅を降りて歩いた。駅前の松の林が懐かしく思われた。自分もまだ頑張れそうだ。

福岡伸一教授の御講演は素晴らしかった。先生の著書「生物と無生物のあいだ」は私の勤めている大学の、理科コース専修の学生の必読書である。「新しいものと置きかわる流れこそ生命」。そのことは千葉東高にもあてはまる言葉だろう。

**第20代校長 五十嵐和廣 先生**

約3年ぶりに体育館の壇上から、先生方、生徒の皆さまとお会いしましたが、一人ひとりの生徒はすっかり入れ替わっているにも関わらず、以前と全く変わらぬ空気の中で肅々と式典等が進行していく様は、これが東高の伝統と改めて強く感じました。福岡先生の講演は、一個の生命体における動的平衡の話でしたが、集団にも動的平衡は当てはまる気がした一日でした。同窓会ははじめ、ご関係の皆さまの企画の素晴らしさに感動致しました。

**第21代校長 玉造 功 先生**

平成23年3月末まで体育館の耐震改修と並行して、70周年記念事業の準備にあたりました。同窓会の皆様のご尽力により、装い新たな体育館にふさわしい記念事業となりました。

記念式典については、「生徒諸君、立派でした！」の一言です。

**通信制振興会会長 井下田 博 先生**

式典に来賓として出席して井戸川実行委員長、渡邊校長から感謝状まで頂き感激した。

井戸川氏は私の在校時のクラス委員であり、渡邊校長は、私の校長時代に採用した先生であった。講演も良かったが生徒の質問も当を得ており、会の運営も今までの教育研鑽の結果と思われた。当校にかつて在職したのものとして、これ以上の喜びはない。東高に栄光あれ!!

**元教頭 高野だいわ 先生**

60周年の時には、教頭として勤務しており、お手伝いできた事がちょっぴり誇りです。

英明闊達にして行動力のある生徒、熱心な指導の職員、良識ある保護者の皆さま、そして母校の発展に惜しみない支援を行う同窓会となれば、「文武両道」の高みが望めます。その高みとは「ノーベル賞の受賞者を出す」ことでしょう。千葉東は私の「心の母校」。その時代に生きた証を糧に、そしてノーベル賞受賞者が出るまで同窓会総会にも出席し続けていきます。

**旧職員 細川 悦子 様 (高校第8回S31卒) (談話)**

母校も立派になり、生徒も立派な立ち居振る舞いで、とても感激しています。

益々発展して行って欲しいと念願しています。

**旧職員 佐瀬八重子 様**

60周年も出させていただきましたが、今回が最後と思い出席しました。私、卒業生だったかしらと思うほど校歌も忘れていませんでした。一緒に唄いながら、この在校生達が80周年、90周年、100周年へどのような思いを寄せるのか楽しみになってきました。千葉東高校のますますの発展をお祈り致します。

**平成23年度PTA会長 蜂屋 晴美 様**

この記念の年に、なぜ私がPTA会長なのか？と何度思ったことでしょうか。しかし、実行委員会を重ね、同窓会役員の皆様の母校への愛情に触れるうちに重圧は楽しみに変わっていきました。多くの方のご尽力の賜物である荘厳で素晴らしい式典を終えた今、参加できた高校生たちがそれを幸運と享受し、将来は同窓会の一員として母校へ貢献できる大人になってほしいと、母として切に願います。

**平成22年度PTA会長 鹿間 道子様**

生徒中心の記念行事は、東高らしい落ち着きと心温まる雰囲気が感じられました。伝統ある東高の節目に立ち会うことができ、またPTA活動の締めくくりとしても素晴らしい思い出となりましたことを心より感謝致します。

**平成14年度PTA会長 吉田久美子様**

福岡伸一さんの記念講演を興味深くお聴きしました。何かに真剣に取り組んでいると、世界は思いがけない方向に広がったり、努力していると、ピカッと光る瞬間に出会ったりするのだと思います。その光は、一生懸命にやってきた人にしか感じられないような種類のものです。先の予想の難かしい時代ですが、どうぞ、好奇心を大切に、感性を磨いて、自分の世界を広げ、生きることを愉しんでください。

**元同窓会役員 吉橋 重夫様 (高校第11回S34卒)**

記念式典に臨み、私が感じたことは、一つに福岡伸一先生に対する生徒の質問が収入やら高度な生物論まで幅広く、生徒の伸びやかさと素直さが感じられた事です。いま一つは、生徒の謝辞のときに渡邊校長が生徒の顔(目)を見ていちいち頷いていたことです。校長にしっかりと理解されている生徒達は幸せです。

**在校生 1年 高橋 幸平くん**

昨年4月、僕は千葉東高校に入学しました。東高生は、授業のある日も休みの日も、勉強に部活に学校行事に、とにかく忙しい日々を送っています。その日々に慣れた時こそ、真の東高生になれるのです。70年間代々受け継がれてきたこの古き良き伝統、東高魂を大事にしつつ、これからも日々精進していきたいです。

**在校生 1年 大嶋 智葉さん**

福岡先生の記念講演で初めて「動的平衡」という言葉を知った。生物は常に生まれ変わっているそうだ。自分の意思とは無関係に変化し続けていると思うと、なんだか自分のものではないような気がした。さらに生命が壮大なものにも思えた。このように新しい知識を得て、私の考え方が変化したのも一種の動的平衡なのだと思う。

**在校生 2年 上山 翔くん**

在校生として、創立70周年という節目に立ち会うことが出来て非常に嬉しく思います。これまで歴史を重ねることが出来たのは先輩方の努力があったからだと思改めて実感しました。私達も伝統に恥じないよう努力し、さらに発展できるよう頑張っていきたいです。

**在校生 3年 樋本 明莉さん**

70周年という記念すべき年に在学できたことを嬉しく思います。重い歴史がこの高校に詰まっているのだと思うと、いっそう母校への愛着心が湧きます。記念式典では多くの御来賓の皆様が来て下さり、千葉東高校はたくさんの人に支えてもらっているのだな、と実感しました。

**在校生 3年 榎木美沙子さん (式典司会役)**

兄に続いて入学できた喜びとともに自分が創立70周年に立ち会えたこと、式典の司会に選んでいただけたことで入学当初は憧れだった学校が、今は自分の母校になったのだと改めて自覚することができました。卒業後も千葉東高校で学んだという誇りを胸に一步一步進んでいきたいです。

**在校生 3年 上野 彰士くん (式典司会役)**

70周年式典の司会進行を務めさせていただき、その中で私は長い時を繋いできた過去から未来へと続く絆を強く感じました。今まで東高にかかわってきた全ての人の思いが詰まったバトンを引き継ぎ、未来の東高生へとつなぐ…そんな素晴らしい絆の一部を担えたことを光榮に思うと同時に、この東高のさらなる発展を祈っています。



# 東雲祭参観記 参会者5,000名超!

## 楽しめました 東雲祭

### 【東雲大賞】 3年4組「ライオンキング」

東高校の生徒達にとって、年間の最大行事である第47回東雲祭が、平成23年9月3日(土)・4日(日)の両日にわたって開催されました。開催にあたっては、去る3月11日に発生した東日本大震災の影響など諸般の事情から「祭り」という名の学園祭を開催しても良いものかどうかを学校側としても十分検討し、生徒たちとも話し合った結果、開催にこぎつけたとのことでした。

電力を節約するために、演劇等屋内の催し物は、舞台の証明だけ、体育館での音楽演奏等の催し物については、窓からの採光のみで行うなど種々工夫が凝らされていました。

全ての面で全力で取り組もうという姿勢を示すために、今回のテーマは「全力東球」と決めたとのことでした。私たち同窓会からは、4日の午後に会長、副会長、書記とともに参観してきました。今年の参加団体は、各学年の24クラス、部活、同好会、教員やPTA理事会等を含めた有志グループ25団体と合わせて49団体でした。

参観者は両日併せて5,000名以上ではないかとのことでした。また、今年の東雲大賞は3年4組のライオンキングだったとのことでした。

今年は震災という状況下での職員、生徒の皆様方の2日間のための事前準備は本当に大変だったろうなと思います。

同窓生の皆さまも是非母校生徒の活躍をご覧になってください。例年開催日は9月上旬とのことですが、詳細については母校事務室に。

素晴らしい「祭り」をありがとう!

(同窓会副会長 高橋一郎 高校第9回 S32卒)



東雲祭 マンドリンオープニング



東雲大賞 3年4組「ライオンキング」



東雲祭エンディング!!

JR京葉線 **蘇我駅東口前**

**アパートマンション分譲住宅**

おかげさまで創業46年

不動産の売買・仲介  
賃貸借・総合管理の  
ことならおまかせ!

堤 清司 (昭和53年卒)

**三幸商事株式会社**

TEL.043-263-3535  
FAX.043(265)4488

〒260-0842  
千葉市中央区南町2-17-11  
http://www.sanko-shouji.co.jp

# 東日本大震災 そのとき母校は……

平成23年3月11日(金)14時46分 まさに驚天動地 …… 世界の関心を集めた東日本大震災発生。  
その時、母校は？ 多くの同窓生からお問い合わせを頂きましたので、ルポルタージュでまとめてみました。

## (須藤教頭先生にお話を伺いました)

地震が発生した午後2時45分現在、1・2年生の期末試験2日目の後で、自習や海外派遣プレゼン準備などで約50名の生徒が残っていた。全員で校庭に避難すると、臨海地域の火災の煙が見えたという。

校舎の直接被害は美術室の窓ガラス1枚破損と管理棟廊下の壁のヒビのみ。一時ガスが止まり暖房を使えず。図書室などで棚の中身の散乱があったものの、教室棟が耐震工事済みのため他の目立った被害はなし。

やがてJRが終日運休とのアナウンスがあり、周辺道路の渋滞が始まり翌朝まで続く。自転車通学者が帰宅する一方、帰宅困難な生徒が出る恐れから殆どの職員が午後10時頃まで残り、食糧確保などに走る。保護者が迎えに来た生徒もあり、最も遅い生徒で深夜0時頃になった。

最終的に生徒7名と職員10名がセミナーハウスに宿泊した。布団の常備がなく、保健室から調達した。

千葉市美浜区や浦安市などで液状化があったため、本校にも自宅の被害にあった生徒が数名いた。

また、当日に受験で3年生が東北地方に数名おり、全員無事との連絡があった。他校の受験生を取りまとめて帰宅した生徒、ヒッチハイクで帰宅した生徒がいた。

3月14日(月)と15日(火)はJR運休で休校。

16日(水)に平常日課を再開したが、通学不可能で公欠の生徒もいる。殆ど答案返却のみとして12時30分完全下校。期末試験3・4日目が中止。

部活動は21日(月)まで停止。25日(金)～4月5日(火)の春休みは不測事態に備えて午前9時～午後2時30分に制限され、校外活動が禁止。

本校は計画停電の対象となり、その間は水を汲み上げるポンプが停止するため、トイレでは予めポリバケツに汲んだ水を使用することとなった。

東雲祭の収益44,848円を中央共同募金会と赤十字に、赤い羽根募金で17,196円をそれぞれ寄付した。

また、被災地生徒受け入れや被災地への臨時教員派遣は、本校では発生しなかった。

## (引率した国語担当の山口先生にお話を伺いました)

米ク拉克ストーン高校への派遣は3月17日(木)～3月29日(火)の日程で予定通り実施された。また現地でも説明するプレゼンも事前に準備した内容のまま変更なし。

同校では募金箱を設置したり、放送部の生徒が本校生にインタビューをするなどの動きがあった。

また、地元のテレビ局が本校生をインタビューし、番組内でそれを津波の映像などと合わせて放映した。

地元の別の中学では、企業と協賛して折り鶴による募金活動を行ない、本校生が折り方を教えた。その後、募

金額は慈善団体などを通して(日本側に)寄付された。

地震が始まらないク拉克ストーンでは(地震訓練がないが竜巻訓練あり)、住民は津波の映像に大いにショックを受けたという。一方で非常事態に際しての日本人の秩序正しさを感じたともいう。

## (顧問で音楽担当の青木先生にお話を伺いました)

3月29日(火)に京葉銀行文化プラザ(旧ばるるホール)で予定していた。創部以来初めての中止。

震災当日に青木先生は千葉市内の別の場所において、16日に部員と顔を合わせるまではメールで意見交換を続けていた。そして18日(金)の完全下校寸前に部員を集めて中止を告げたところ、誰もが状況を冷静に受け止め、異議を唱えたり取り乱したりする者もなく、わずか15分、全会一致で中止が決まった。

ただ高校生活最後となるはずの当時の3年生からは、これに代わるものをやりたいという意見があった。そこで、2012年3月29日(木)の定演に在校生との合同のステージを設け、これに全員が出演する予定である。

そんな部員に対して、青木先生は「被災された多くの人に思いを馳せ、今を生きていることの重みを受け止めながら精一杯歌おう」と呼び掛けているとのこと。

## 終わりに

日本中に深い爪跡を残した東日本大震災。それによる様々な不自由や絶望を乗り越えて、東高で誰もが、自分や人々のために何ができるかを意識しながら懸命に生きている。それが取材を通して分かりました。

津波や原発事故でかけがえのないものを失った東北を含め、街が元の活気を取り戻し、人々に笑顔が一日でも早く戻ることを、切に祈ります。

(文責・書記 市原俊介 高校第45回H5卒)

誇りある日本を、千葉から  
千葉市議会議員(稲毛区選出)



田沼隆志

(平成6年卒)

〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台4-14-8

TEL 043-253-9610

HP <http://tanuma.info>

FAX 043-253-7255

ブログ <http://ameblo.jp/tanuma>

twitter @tanumatashi

メール [tanuma@tanuma.info](mailto:tanuma@tanuma.info)

# 在校生 バンザイ!!

ことしも在校生は頑張っています。そのうちの一部をご紹介します。

## 山岳部 2011北東北インターハイ

男子団体優勝（昨年5位）、  
女子団体第6位（昨年準優勝）入賞

8月9日～13日に青森県岩木山・北八甲田連峰で行われた平成23年度全国総体（インターハイ）登山大会において、本校山岳部は男子団体で優勝、女子団体も第6位に入賞しました。

今年は、男女8名の選手のうち、昨年のインターハイ経験者が3名残り、昨年の経験を活かし、男女とも千葉インターハイ以来6年ぶりの全国制覇を目標に大会に臨みました。特に男子は安定した行動をすることが出来、千葉県勢として初めて男子団体の優勝を勝ち取ることが出来ました。女子も細かなミスもありましたが、第6位に入賞することが出来ました。

登山競技は山の中で行われるため、大会コースが毎年異なり、登山コースの事前の下見調査が成績に大きく左右します。以前は2回の下見を行っていましたが、今年は大会会場が青森県と遠方のため、下見が一度しかできませんでした。

一度の下見で、成果を発揮することができたのは、生徒の努力はもちろんですが、同窓会の皆様方のご支援に追うところも大きく、深く感謝しております。遠方の青

森県で、男女とも入賞を達成できたということは、生徒達の今後の自信につながると思います。

また、本年度、長年山岳部を指導してきた高山雅夫が異動し、顧問が原邦夫、福田義久、住吉信夫の3名体制になりました。その中で、山岳部として変わらず成果を出すことが出来ました。今後とも、一生涯の趣味ともなる登山の技術を研鑽し、生涯スポーツとしての安全登山の基礎を身につけることが出来るように精進していきたいと思ひます。

山岳部はこれまで、装備などを中心に同窓会から多大なる援助をいただきました。今回、少しは恩返しが出来たかもしれません。顧問、部員一同心から感謝いたします。ありがとうございました。

（山岳部顧問 原 邦夫 記）



県庁内で森田知事と

## 書道 第20回記念 国際高校生選抜書展

第20回国際高校生選抜書展について本校生徒4名（昨年は2名）が入選を果たしました。

この書展は日本国内外から17,000点の応募がありその中の快挙です。

3年生の大和田周甫君は2年連続、同じく3年の浦井晴香さんは1年次に続いて2回目の受賞となりました。

入選した4人からそれぞれコメントを頂きました。

### 2年ぶり2回目受賞 3年 浦井晴香さん（部長）

「今回、卒業前の最後にこの国際高校生選抜書展で入選することができてとても嬉しいです。この作品は夏ごろに書いたもので、文化祭の準備や受験勉強で時間がなかったのを覚えています。大きい作品（縦140cm×横70cm）なので1枚書くのに時間がかかりましたが、だんだん枚数を重ねるうちに字の形に慣れて書くのが楽しくなりました。そんな努力を結果に出すことができたので良かったです。」

### 2年連続受賞 3年 大和田周甫君

「今回は、昨年と違い文化祭や受験勉強と両立しなければならず大変でした。しかし無心で書き続けました。また全紙（縦140cm×横70cm）に慣れてきたこともあり、自分の出せる力を全て出せた気がします。卒業しても書道を続けて行きたいです。」

### 初受賞 3年 宮崎絢子さん

「今回の作品で、特に気をつけたことは“見直し”です。書いたものを見ながら考えることは難しかったです。とても楽しく取り組みました。高橋先生の助言も頂き、よりよいものを書けるように1枚を大切にしました。入賞できてとても嬉しかったです。ありがとうございました。」

### 初受賞 1年 河田優奈さん

「入選できたことを本当に嬉しく思います。私は東高に入学して書道部に入部するまで、書道の経験がほとんどなく、今回のような大きな紙（縦140cm×横35cm）に書くのは初めてでした。とても難しかったです。高橋先生に注意点を教えていただきながら何度も書いて、だんだんと納得のいく字が書けるようになりました。これからもたくさん書いていきたいと思ひます。」

## 国際交流米国派遣報告

引率教諭 三川美智子

平成23年3月17日(木)～3月28日(月)にアメリカミシガン州クラークストーン高校へ男子2名、女子8名合計10名の生徒を国語科の山口祐里子教諭と共に引率しました。

日程は初めの3日間はニューヨーク市滞在看学・研修し、4日目(3月20日)にクラークストーンへ移動しホストファミリーから高校へ通学するというものでした。

ニューヨークでは日本人のガイド付きで美術館、国連本部などの見学、劇場でのミュージカル観賞などを体験するという恵まれた滞在看学は大いに啓発され多くの感動を得ることができました。

ホストファミリーに対してはかなり気を遣ったかもしれませんが、とても大切にされて過ごし、主たる目的である日本文化、生活事象についての研究発表では次々と遭遇する困難も賢く乗り越え、相手を喜ばせて自分たちも楽しみました。

この平成22年度の派遣事業で特筆すべきことはまず3月11日の大災害から1週間も経っていない時期であったということです。

出発当日空港に行くと、私たちが搭乗するデルタ航空のみが国際線として稼働しているということがわかり、「ありがたく出かける」ということかと受け止め、出発しました。

このアメリカ派遣団はクラークストーン高校の日本語教師フェイ先生の授業で研究発表を展開することを基本としています。ですから、東高との交流を揺るぎないものにしようとフェイ先生はとてもし生懸命で、今回私たち引率者は教育長訪問に同行しました。一日ですばらしい人物とわかったこの方は話を良く聴いてくださり、翌日はわざわざクラークストーン高校まで授業を見に来てくださいました。

東高でも生徒が国際理解に関心があり、直接の担当者のおよめ努力をしていることのみならず、保護者の方々、同窓会のしっかりしたバックアップがあればこそ連綿とこの事業が受け継がれ、毎年今年がベストと評価されて無事に帰って来ることが出来ます。



ニューヨークのホテルの前で

## 各地で同期会・支部会・地区会 活発に開催

各地で同期会・部活動OB会、クラス会などの活動が盛んになってきました。今回も各地から編集部へ寄せられたご寄稿をご紹介します。

### 第6回東雲会ゴルフコンペ

平成23年7月18日(月)海の日 好天気の中、山武グリーンカントリークラブにて、元母校校長の長妻孝治先生はじめ多数の同窓生、旧職員の先生方とともに東雲会交歓ゴルフコンペをいたしました。

今回は江口憲治先生を囲む会の皆さんとの合同で挙行致しましたので6組23名という大盛況でした。

新ペリア方式での結果は、優勝矢代正人先生(38/40 H4.8 N73.2、以下別表の通り)でした。

毎年恒例の“次々と新しいメンバーが生まれますよう

に”との思いを込めた「生みたての卵と沢山の野菜」の参加賞が配られ、ゴルフ場役員の同窓生の楢田英之氏(高校33回生)からも特別賞をいただき、終了後のパーティーでは、それぞれ母校での思い出や先生方との触れ合いなどが語られ、大変盛り上がり来年の再会を約して散会しました。

### 優勝者 矢代正人さんのコメント

私は平成5年から16年まで11年間、体育教諭として東高に勤務していました。教え子とのプレーはまだ実現していませんが、多くのOBの方々とは大変楽しくラウンドしています。今回は、ハンデや同伴プレーヤーに恵まれ、優勝することができました。皆さんとても紳士的で参加しやすい雰囲気です。是非ご一緒にいかがでしょうか。

### 江口憲治先生のコメント

初めて参加させていただきました。

数年前から、私のクラスを中心に「囲む会」が発足し、年1～2回のペースでゴルフを楽しんでおりましたが、東雲会幹事の澤田さんより同窓会でもコンペを実施していることを聞き、皆で参加させていただきました。

大会は、会長さんを中心に推進している「三交活動」に相応しい実に和気あいあいとした中で、楽しい一日を過ごすことができました。「囲む会」の皆も次回の参加に向けひとりでも多くの参加を呼びかけることを約束して散会しました。

平成24年も7月16日（月）海の日に開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

(幹事 澤田 繁信 高校第23回S46卒)



スタート前の勢揃い

東雲会 ゴルフコンペ 順位表 (敬称略)

順位	氏名	GROSS	HDCP	NET	備考	順位	氏名	GROSS	HDCP	NET	備考
1	矢代 正人	78	4.8	73.2	BG	13	米村 勝一	91	14.4	76.6	
2	丸 尚作	88	14.4	73.6		14	安川 民恵	87	9.6	77.4	
3	森谷 修一	96	21.6	74.4		15	安岡 一昭	93	15.6	77.4	
4	西澤 伸子	89	14.4	74.6		16	横山 創	93	15.6	77.4	
5	峰島 信司	95	20.4	74.6		17	大野 博敏	92	14.4	77.6	
6	澤田 繁信	93	18	75		18	奥田 雅之	96	18	78	
7	黒川 康宏	91	15.6	75.4		19	池田 達也	94	15.6	78.4	
8	松元 照久	84	8.4	75.6		20	吉原三千男	103	24	79	
9	長妻 孝治	96	20.4	75.6		21	中村由貴彦	90	10.8	79.2	
10	江口 憲治	94	18	76		22	川島 文代	109	28.8	80.2	BB
11	高山 善則	94	18	76		23	岩本 達雄	100	16.8	83.2	
12	井戸川 浩	98	21.6	76.4							

お申し込みお問い合わせは

澤田 (☎043-261-4528 ギャレックスチバ株式会社) まで。  
(ただし、お申込みお問い合わせの受付時間は昼間のみですのでご協力ください)

高女2・3回生懇親会 (昭和21年・22年3月卒)

平成23年6月21日(火) そごう 千葉店“鯨やまと”にて《幹事から一言》

毎年恒例になっている懇親会。今回の出席者は8名。久しぶりに来られた方達を交えて話題も広がり、話に花が咲きました。

2時間余りがあつと言う間に過ぎ、名残惜しみながらも明るく、若々しい笑顔で解散しました。

次回懇親会は、6月第3日曜日 平成24年6月17日です。会場は今回と同じ【そごう千葉店地下1階フードコート内“鯨やまと”】で実施致します。

同期の皆さん、いつまでもお健やかに、一人でも多くの方が参加されることを願っています。

(高女第2回S21卒 小林美代子)

昭和32年卒 (高校第9回) 同期会開催についてお知らせ (事前予告)

平成24年6月頃2年ぶりの同期会を開催する予定です。

各クラスの世話人ともこれから相談の上、日時・会場等が決定話した段階で改めてご案内状をお送りいたしますので万障お繰り合わせの上、ご出席いただきますようお願い申し上げます。

(世話人代表 高橋 一郎)

昭和34年卒 (高校第11回)

3E 井下田ルームクラス会

平成23年10月9日(金)

千葉市中央区春日 西千葉のいいお店「ソラマメ」

《幹事から一言》

86歳を迎え、相変わらずお元気な井下田 博先生を囲

み9名が集まりクラス会を開催しました。

今回はいつもより参加者が少なくさびしいながらも密度の濃い話で盛り上がりました。

70歳くらいになると、親の介護や亡夫・亡妻、自らの不調など自身をとりまく環境の大きな変化に立ち向かう時期なのかも知れません。それぞれなりに生き抜いてクラス会に顔を出してくれると嬉しいものですね。

元気でやってこられたことの幸せをかみしめつつ、出席が叶わない事情にある友人たちを思いやるひとときでもありました。

(幹事 井戸川 浩)



昭和38年卒 (高校第15回) 久しぶりの同期会です

平成23年11月13日(日) 12:00から

県庁前「ホテルプラザ菜の花」

《幹事から一言》

高校入学から数えてちょうど50年を経た会である。今回で4回目久しぶりの同期会です。

参加者は5組の担任だった奥山 浩先生、そして生徒104名計105名での盛大な宴となった。

齢65を過ぎ、まだ現役でがんばっている者、体調を崩している者など様々だったが、酔いとともに皆若返り、会が終わる頃には皆が30代に見える。



会の途中で我々が3年の時に流行っていた「高校3年生」そして最後に「校歌」を合唱し、楽しかった2時間の同期会は閉幕となりました。

(幹事 佐久間敏夫)

## 平成23年度 野球部OB会 新年会

平成23年度の本校野球部OB会恒例の新年会が、去る1月21日(土)京成ホテル・ミラマーレで開催されました。今回はOBのほか、以前監督を務められた津嶋英也先生(現在生浜高校勤務)、濱井清之先生(富里高校校長)をお招きし、会員17名の参加で開催されました。

また、今回は津嶋、濱井亮先生の指導を受けたという、平成3年卒の山本哲也君の参加があり、若い世代の参加者増へ向けた期待がこめられました。

新年会は藤代会長挨拶、津嶋、濱井先生の祝辞のあと、高橋から今年度の報告・来年度への目標を述べさせていただいた後、渡辺先輩の乾杯で懇親となりました。何とかOB会の活動を活発にして、本校野球部の発展を支援していきたいと思えます。

なお、24年度のOB野球大会1回戦は7月29日(日)から1回戦が開催されます。詳細は追ってご連絡しますが、都合のつくOBの方は是非ご参加ください。

野球部監督 高橋敏行 (高校第28回S51卒)



野球部OB会で挨拶する藤代会長

## 剣道部OB会 三紫会 総会

平成24年1月7日(土)中央区美弥和にて例年どおり45名ほどが集い、総会を開催しました。残念なことに、わが三紫会を50数年に亘りご指導くださいました長井昌夫初代会長(高校第7回卒)が23年10月20日にご逝去されました。

また、昨年3月11日の東日本大震災で亡くなられた多くの方々のご冥福を重ねて黙祷をいたしました。

総会では、会計報告、事業報告、24年度事業計画、さらに平成25年、創部60周年を迎えるに当たり記念行事の準備等について承認されました。

つづいて、元顧問の亘登志雄先生の乾杯のご発声で懇親会に入りました。

懇親会では、本日も在校生と新年稽古会を行ってきたことが報告されたり、若いOBが先輩OBに剣道以外の社会人としてのご意見や、就職活動などについても相談するような場面も見受けられました。

また、毎週木曜日18:00より、第4日曜日14:00より稽古会を開催し、OB同士の交流が多く行われていることも確認できました。

参加者から毎年昇段に向けて努力を重ねている報告もあり、多くのOBの積極的な参加を呼びかけました。

今後も母校の剣道部ならびに三紫会の発展を時間も忘れて語り、創部60周年記念会に参集することを約して散会しました。

三紫会会長 市川 豊 (高校第13回S36卒)



亘先生の音頭で乾杯

司会の大役 大越さん  
(高校第62回H22卒、現千葉大学2回生)

人間生命の運動法則を研究する科学

# 千葉人間科学協会

理事長 小塚興作 (高校第11回卒)  
千葉市若葉区桜木7-5-64

☎043-231-9215

## 同窓会からのお知らせ

### 1. 住所・姓名などの異動変更をお知らせください。

卒業後、住所や姓名などが変更された場合には母校同窓会事務局までお知らせください。

毎年、会報の「宛先不明」返送数が増加しております。せつかくの情報がお届けできませんのでよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

尚、個人情報に関しては、会報発送、同窓会関係の照会・連絡以外には使用いたしません。

### 2. クラス会、同期会、部活OB会等の記録をお寄せ下さい。

クラス会、同期会、部活OB会などの実施報告（写真歓迎）がありましたら、「会名」「時と場所」「参加人員」「幹事感想」「集合写真」など母校同窓会事務局まで毎年12月末までにお知らせ下さい。（原稿・写真は原則としてお返しできませんのでご承知おきください）

また、「集まりの予告」でも結構です。“シャロンの花”は毎年3月に発行されますので、その後には計画されている集まりの予告、呼びかけをすると効果的です。（原稿は母校同窓会事務局シャロンの花編集部まで）

### 3. 同窓会ホームページが開設されました。

同窓会では会員の皆さんからのご希望もあり、ホームページの開設を検討してまいりましたが、このほど簡易ホームページを開設する運びになりました。

URL <http://www.dosokai.ne.jp/chibahigashi/>

なお、これとは別に母校のホームページも一新されましたので母校の状況もご覧下さい。

URL <http://www.chibahigashi>

### 同窓会活動維持基金

同窓会活動は、母校の状況と卒業生の動向をお知らせする会報“シャロンの花”の発行と、部活や教育活動で母校発展のために活躍する生徒や、それを指導する先生方を後押しする母校教育活動への金銭的支援活動です。

県下でも注目を浴びている母校の教育活動への支援に、更なるご後援をお願いいたします。

### 創立100周年祈念80周年記念事業基金

お支払いはお手数ながら、同封の郵便振替用紙にて1口2千円、何口でも結構ですので、ご送金下さいますようお願い申し上げます。

#### 郵便振替口座

00160-8-148932

千葉東高等学校同窓会

## 消息

逝去 元同窓会常任幹事 中村英之氏（高校第10回S33卒） 逝去日 平成23年1月29日

## 編集後記

第16号をお届けいたします。

昨年3月本誌を発行直後に東北の大震災、続く大津波、原発事故と日本は未曾有の災害に襲われました。

その中でも、日本人はけなげに耐え、静かに復興に取り組んでおり、世界から哀悼、支援、激励が集まりました。

今年の漢字に選定されたように「絆」が叫ばれ、あちこちで絆の回復が言われ始めました。

私たちは、同窓会は学校を縁とする「絆集団」なのだといつも言ってきましたし、そのための仕掛けを色々作ってもきました。

クラス仲間や同期生との「同学年交流」、部活OB会などの「異学年交流」、そして先生を囲む「師弟間交流」のいわゆる「三交活動」を推進し、それら三交を一堂に会したのが「同窓会総会後の懇親会」です。ことしも是非総会にお出掛けいただき東高健児の心意気に触れてください。

こうした活動が活発になればなるほどみんな元気になりますね。

母校も70周年を終え、次の80周年、100周年に向かってリスタートです。

どうか、これからも「シャロンの花」をご愛読下さい。

（編集委員一同）